

比較経済発展史特講Ⅱ

選択 2単位

宮田 純

1. 授業の概要(ねらい)

現代の日本経済や日本企業の発展史についての知識受容を通じて、大学院生として不可欠な素養の蓄積をはかる。授業の聴講と、授業時に提示する重要キーワードについての事前学習(予習)や授業後の再確認により知的基盤の確立がはかられる。

なお、本講義では高度経済成長期以降(1970年代)から現在(2020年)までを扱う。

2. 授業の到達目標

国際社会の中の日本、ならびに技術開発の進展といった観点から、経済活動の変質を把握し、現代における日本経済や日本企業の発展史を通史的に把握することができる。

現代における日本経済の発展史を構成する専門用語に対して確実な理解を寄せ、それを適切に使用しながら表現することができる。

現代における日本経済の過去の展開を把握したうえで、それを参考としながら現実を分析し、さらに具体的な未来を構想することができる。

国際比較の観点から、現代における日本経済の発展史についての位置づけを行うことができる。

授業を通じて蓄積した知識を修士論文の作成に反映することができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業への貢献度(60点)とレポート点(40点)との合計点による。※筆記試験は実施しません。

4. 教科書・参考文献

教科書

手引書はガイダンス時に配布する。

参考文献

各実習の参考文献等は、その都度紹介する。

5. 準備学修の内容

【予習】授業時に提示した重要キーワード(専門用語)についての事前調査学習

【復習】講義録に私見としての論述を施した再整理

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

【第1回】 はじめにーガイダンスー

【第2回】 比較経済発展史特講Ⅱの分析視角ー時代区分の観点ー

【第3回】 戦後ー高度経済成長期の日本経済ー三菱財閥への視点を中心としてー

【第4回】 高度経済成長期の国家プロジェクトと日本経済ー大林組・清水建設への視点を中心としてー

【第5回】 ニクソン・ショックと日本経済

【第6回】 オイル・ショックと日本経済ーヤマト運輸への視点を中心としてー

【第7回】 ブラザ合意とその影響

【第8回】 日米貿易摩擦と日本経済ー自動車産業・半導体産業への視点を中心としてー

【第9回】 バブル経済の展開ー三菱地所への視点を中心としてー

【第10回】 バブル経済と国民生活ー山一証券への視点を中心としてー

【第11回】 平成不況・いざなぎ景気と日本経済ーファーストリテイリング(ユニクロ)への視点を中心としてー

【第12回】 グローバル社会と日本経済ー旭化成への視点を中心としてー

【第13回】 IT社会と日本経済ーAmazonへの視点を中心としてー

【第14回】 日本経済・日本企業の今後

【第15回】 まとめ